

第13回「日本語大賞」

テーマ「 」に伝えたい言葉

中学生の部 文部科学大臣賞 受賞作品

地球に伝えたいこと

大阪府
同志社香里中学校
一年 永野 心深

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

こんにちは。

最近どうですか。元気ですか。ちよつと体調壊していないですか。

あなたは四六億年ほど生きてきましたが、人間の年齢に置き換えると今何歳くらいなのでしょう。

あなたを一人の人間とすると、あなたに存在する全ての動植物や物質があなたを構成する小さな細胞です。私たち人間という細胞があなたの中に存在し始めてから五〇〇万年。あなたの歴史の中ではほんの九二〇分の一の時間、九二歳のお年寄りで考えればわずか一カ月程度の時間しか経っていないことになるでしょうか。これまで多くの細胞が生まれては消えていきましたが、その多くの細胞はあなたにどういふ影響を与えたのでしょうか。

あなたにエネルギーを与えるもの、逆にあなたを汚すような存在、そもそもなくてはならないもの。

あなたの体をあたかも自分のようにかん違いして振る舞い、消えていった恐竜などもいました。しかし私たちからすればそれだけ大きく見える存在も、あなたにとつては、中学生で初めてできた少し大きめのニキビ程度の存在だったかもしれないかもしれませんね。

私たち人間はどうでしょうか。九二歳としたら一カ月、四六歳であればまだわずか数週間程度しか存在していない私たちはあなたにどういふ影響を与えているのでしょうか。

私たちはあなたの中で必死に生きています。必死に生きていく中で、地を知り空を知り、火を使い水を作り、最近では科学を生み出し、広いあなたの体を動き回れるようになりました。数週間の間、一人一人が生き残るために細胞同士で殺しあつたりもしてきました。そのために時にはあなたの体を傷つけてきたりもしました。あなたの体の中を自由に動かす時、あなたの中で私たちが快適に過ごすために、ちよつとあなたには有害なガスや必要以上の二酸化炭素なんかも作っているかもしれません。私たちが生きるために、放射能をまき散らしたり、生態系を壊すほどに過剰に他の動物を食べたりもしています。でも仕方ないですよ。あなたにとつて必要な私たちが便利で快適に生き残っていくためですから。

ん、必要な私たち？

必要かどうかなんて考えたこともなかったけれど、今私たちが数週間の間にやってきたことを振り返ったら、ちよつと迷惑かけているかもしれないですね。ちよつとかな。もしかしたら結構迷惑かけているかもしれないですね。いや、もしかしたら私たちがいない方が健康なんじゃないですか。私たちつて迷惑、がん細胞みたいなもの？

でも聞いてください。私たちはどの細胞より優れているんです。これまであなたの体に悪いものを作ってきましたが、逆にいいものも作れるんです。それになんといつても考えることができます、善悪もわかるんです。このままあなたの体を病気にして、一緒に死んでいくような馬鹿なことしません。ちよつと目標も立てました。二酸化炭素の削減や、SDGsなどもそうです。継続的にあなたの体を害さないための目標です。これからの私たちを見ていてください。きつとあなたにとつて素晴らしい存在になってみせます。そして私を見てください。

七〇億分の一のちよつぽけな細胞だけど、この想いが隣の細胞、また隣の細胞へと伝染して、いい流れが生まれるかもしれません。私の人生はあなたの人生の中では、まばたきぐらいの

長さもないかもしれないけれど、思い一つで何かできるような気がする。決してがん細胞なんかになるもんか。

「観測史上最大」そんな言葉ばかりがニュースで聞こえてくるほど、最近の雨の量が多すぎるからか、夏が暑すぎるからこんなことを考え始めたのか。私は夏休みの暑い日に、体育座りをしてこんなことを考えて、地面にぶつぶつ言っていたら、何か今回思ったことが、私のこれからのまばたきほどの人生のテーマの一つになるような気がしてきた。将来何をしたいか、何になりたいかもまだまったくわからないけれど、何か心を少し突っつかれたような、そんな気がしてきた。他にも多くの人が同じように考えてくれたらいいのに。この向こう側のブラジルの人なんかも。

同じように。